

2010年度海外研修旅行の報告

藤田英樹・林 文明・鈴木泰成・木下 茂・松浦克至

1. は じ め に

本学では、キャリア科目として2009年度から海外研修Ⅰを開講している。内容は学生の人材育成を兼ねたもので、毎年夏季休暇中に希望者を募り海外への研修旅行を実施している。研修旅行先の多くは、2000年より本学提携校となったイタリア国立フェラーリ工業専門学校 (IPSSIA A'Ferrari) が所在するイタリアに行っており、イタリアへの海外研修旅行は今年で10回を数える。昨年初めてドイツの自動車文化に触れるという目的でドイツ訪問も実現した。本年もドイツとイタリアを訪問した。

本稿では、2010年に行われた海外研修旅行について報告する。

2. 研 修 旅 程

海外研修旅行については、提携校であるイタリア国立フェラーリ工業専門学校への訪問及びドイツとイタリアの自動車産業の見学を中心とした研修を主に検討した。

研修旅行の日程が、2010年8月26日(木)～9月4日(土)の8泊10日に決定するまでにはいくつかの曲折があった。海外研修・留学委員会からの要望と提携校及び旅行会社との交渉は容易ではなかった。利用航空会社の変更により中国での乗り換えが必要となった分、研修期間が延びることとなった。また、例年研修の中心となっていたフェラーリ社の工場見学は実施が確定ではないことから、募集時点では不確定要素を除いた形で募集を進めることとした。

この状況でも研修内容の充実を検討し、昨年初めて訪問したドイツの見学先も再検討した。その研修内容は表1に示すように、イタリア国立フェラーリ工業専門学校の訪問、フェラーリ博物館、ランボルギーニ博物館、パガーニ・ゾンダ博物館の見学、フェラーリ専門のカロッツェリア(整備工場)の見学、フェラーリ社のテストコース見学、ベンツ博物館と工場見学、BMW博物館、また異国文化に関わる研修ではシュトゥットガルト、ミュンヘン、ウルム、ヴェネツィアを巡る充実した研修旅程にまとまった。

表1 海外研修旅行実施旅程

	月 日	都市名	交通機関	時間	スケジュール	食事	
①	8月26日 (木)	セントレア 北京 北京 フランクフルト フランクフルト シュトゥットガルト	発着 発着 発着 着 着 着	国際航空 CA160便 国際航空 CA931便 貸切バス	09:20 11:55 14:00 18:10 約2時間	空路：中部国際空港から中国国際航空で中国・北京を経由しドイツ・フランクフルトへ 到着後バスでシュトゥットガルトへ 到着後ホテルへ 【シュトゥットガルト泊】	昼→ 夕→
②	8月27日 (金)	シュトゥットガルト		貸切バス		ホテルで朝食後 終日ベンツ博物館と工場見学及びシュトゥットガルト市内観光 【シュトゥットガルト泊】	朝○ 昼○ 夕○
③	8月28日 (土)	シュトゥットガルト ミュンヘン	発着	貸切バス	約2.5時間	ホテルで朝食後 バスでミュンヘンへ、途中ウルム市内見学 BMW博物館見学とミュンヘン市内観光 【ミュンヘン泊】	朝○ 昼○ 夕○
④	8月29日 (日)	ミュンヘン ヴェローナ ヴェローナ ヴェネツィア	発着 発着 着	列車 EC89 列車 IC9741	13:31 19:07 19:18 20:51	ホテルで朝食後、午前は自由研修へ 集合後、ミュンヘン駅へ ミュンヘン駅を出発しイタリアへ イタリア・ヴェローナ駅到着 乗り換えてヴェネツィアへ ヴェネツィア・メストロ駅到着 到着後ホテルへ ホテルで夕食 【ヴェネツィア泊】	朝○ 昼× 夕○
⑤	8月30日 (月)	ヴェネツィア滞在			午前 午後	ホテルで朝食後 ボートで本島に渡りヴェネツィア観光へ 午後は自由研修へ 各自で夕食後、集合しホテルへ 【ヴェネツィア泊】	朝○ 昼○ 夕×
⑥	8月31日 (火)	ヴェネツィア マラネロ	発着	貸切バス 151km	約3.5時間 11:00 12:30 16:00	ホテルで朝食後 バスでボローニャへ パガーニ・ゾンダ博物館見学 レストラン Pasticcino で昼食 フェラーリ博物館見学 【マラネロ泊】	朝○ 昼○ 夕○
⑦	9月1日 (水)	マラネロ カンダガタ・ホネゼ マラネロ			09:30 11:00 13:00 14:30 15:30	ホテルで朝食後 ランボルギーニ博物館見学 パニーニ氏個人所有の博物館見学 マラネロに戻り昼食、 IPSIA フェラーリ校訪問 トニーオート/ザナシーカロツェリア訪問 【マラネロ泊】	朝○ 昼○ 夕○
⑧	9月2日 (木)	マラネロ ボローニャ マラネロ ミラノ	発着	貸切バス	約3時間	ホテルで朝食後、バスでボローニャへ 午前は自由研修へ バスでマラネロへフェラーリ工場見学 バスでミラノへ 夕食後都市交通を利用してホテルへ 【ミラノ泊】	朝○ 昼○ 夕×
⑨	9月3日 (金)	ミラノ	発	国際航空	12:30	ホテルで朝食後、バスで空港へ 空路：ミラノから中国国際航空で帰国の途へ 【機中泊】	朝○ 昼→
⑩	9月4日 (土)	上海浦東 上海浦東 セントレア	着 発着 着	CA968便 国際航空 CA405便	05:50 11:20 14:40	中国・上海経由 中部国際空港到着	朝→ 昼→

3. 参加募集

海外研修旅行の参加募集人数は20名とした。研修旅行に対する保護者の理解を得るために、3月下旬に新生及び新2年生の保護者宛に案内を郵送した。3月29日には募集用案内のカラーポスターを作成し、各教室及び掲示板、主要建物に掲示し、受付・相談窓口も告知した。

4月3日の入学式後には、新生の保護者にむけて参加募集案内を行い、仮申し込み10名を得た。4月6日には情報センターの担当者に学校HPへの海外研修旅行の募集案内の掲載を依頼した。4月12日に第1回説明会を実施した。ここでも関心が高く8名の出席を得た。この時点で仮申し込み者数は18名となり安心していましたが、これ以降の4月19日に第2回説明会を行い1名、4月27日に第3回説明会を行ったが、参加者はなかった。

また、例年実施している全学生を対象に海外研修旅行参加に関わるアンケートを実施した。アンケート結果で興味を示した学生41名には個別連絡し、その対象者のみの説明会を5月11日に行い6名の参加を得た。

5月18日には、仮申し込み者を対象に説明会を実施し本申し込みとして7名の参加を得た。申し込み者は6月7日現在で12名となった。参加者の確定をしなければならない時期に入ったが、参加者数は伸びず6月28日の参加者説明会の時点において13名であった。参加予定者を対象にパスポート申請の方法、研修旅行に関わる具体的な説明会を実施した。この状況では予定していた募集人数に届かず催行が危ぶまれる状況になると考え委員会を開催し、当初予定した人数に届かない場合でも催行する決定をした。

その後も各委員が仮申込者や関心のある学生を再度個別に回り、説明をして正式申込みの案内をした。その結果、最終参加者は自動車工学科1年生6名、MSE学科1年生1名、2年生3名、車体整備専攻科4名、自動車工学専攻科1名の合計15名となった。その後、参加予定者を対象に最終説明会を7月28日に行った。また、保護者にも最終確認のため研修旅行ガイドブックと出発案内を旅行社経由で研修旅行開始の約10日前に発送した。

4. 研修旅行風景

8月26日：第1日目

午前7時20分に中部国際空港に集合し結団式を行った後、中部国際空港から乗り換え地の中国・北京へ向けて午前9時20分（日本時間）に飛び立った。更に北京を経由しフランクフルト空港（Flughafen Frankfurt am Main）に着いたのは、現地時間の午後6時10分（日本との時差は7時間）であった。十数時間の長いフライトを体験し、その後、専用バスで宿泊ホテルに移動した。シュトゥットガルト（Stuttgart）はバーデン・ヴュルテンベルク州の州都である。メルセデス・ベンツ、ポッシュ、ボルシェの本社がある工業都市でもある。

8月27日：第2日目

午前はダイムラー株式会社メルセデス・ベンツ・ウンターテュルクハイム工場（Mercedes-Benz Werk Untertürkheim）を見学した。案内役のトーマス氏（Thomas Thum）にメルセデス・ベンツの歴史，1904年に物資輸送に有利な点から河川の近くに開設された工場の概要を説明していただいた後，作業環境に配慮されたエンジン組み立て工場を見学した。研修風景を写真1に，工場前での集合写真を写真2に示す。

午後は工場に隣接したメルセデス・ベンツ博物館（Mercedes-Benz Museum）を見学した。ベンツの乗用車，バス，F1レーサーや作業車が，らせん状に最古から最新まで，年代をおって見学できるようになっていた。見学後は，シュトゥットガルト市内の宮殿広場（Schloßplatz），旧宮殿（Altes Schloß）を観光した。その後，ケーニヒ通り（Königstr）界隈を思い思いに自由研修した。



写真1



写真2

8月28日：第3日目

午前バスでウルム市（Ulm）を經由し，ミュンヘン（München）に向かった。ウルムには大聖堂（Ulmer Münster）に世界一高い塔があり，有名な物理学者アルベルト・アインシュタイン（Albert Einstein）の生誕地でもある。ミュンヘン到着後は，BMW博物館（BMW-Museum）を見学した。

午後はミュンヘン市内にあるニンフェンブルク城（Schloß Nymphenburg）を見学し，市内の中心にある新市庁舎（Neues Rathaus）やマリエン広場（Marienplatz）周辺を見学した。

BMWワールド：博物館・工場・情報拠点を総称したBMW Weltを写真3に，ニンフェンブルク城での集合写真を写真4に示す。

8月29日：第4日目

イタリアへの移動は鉄道を利用するので，ミュンヘン駅への移動時間まで市内の自由研修となった。今回は，海外研修旅行史上で初めて欧州の鉄道を利用する。予定経路はミュンヘン駅発—インスブルック（オーストリア）経由—ヴェローナ（イタリア）乗り換え—ヴェネツィア・メ



写真3



写真4

ストロ駅着であった。しかし、ミュンヘン駅から乗車するはずの列車が故障でミュンヘン駅に到着できない事態が発生した。対応策としてザルツブルグ経由ブダペスト（ハンガリー）行きに乗り、途中駅で予定の列車に乗り継ぐことで災難は回避できた。参加者は事態が理解できず、満員列車に重い荷物を持っての乗車となったが問題はなかった。引率者はイタリアでの乗り継ぎが心配になったが、ほぼ定刻に到着できた。ミュンヘン駅でのドイツ高速新幹線（ICE）を写真5に、オーストリア国内通過中の車窓風景（インスブルック近郊）を写真6に示す。



写真5



写真6

8月30日：第5日目

車では入島できないヴェネツィア本島に水上バスで移動し、島内観光を行った。ヴェネツィア（Venezia）はアドリア海に面した水の都であり、古くから貿易商業都市として繁栄した。ドゥカーレ宮殿（Palazzo Ducale）、サンマルコ寺院（Basilica di San Marco）、サンマルコ広場（Piazza San Marco）、溜息の橋（Ponte dei Sospiri）、ガラス細工工房を見学した。昼食後、小運河を遊覧するゴンドラ（船）にも乗船した。午後から自由研修に入り街の雰囲気や夜まで楽しんだ。ヴェネツィアは地盤沈下が進行しており、今回の訪問時には降雨の影響もありサンマルコ広場は一部冠水していた。その様子やヴェネツィアの風景を写真7と写真8に示す。



写真7



写真8



写真9



写真10

8月31日：第6日目

パガーニ・ゾンダを製造するパガーニ・アウトモビリ (Pagani Automobili) があるモデナ (Modena) に移動し、小さな博物館と工場内を見学した。その様子を写真9と写真10に示す。車のボデーはカーボングラファイトで作られていて、独自に加工し炉で焼成成型している。昼食後、バスでフェラーリ社のあるマラネロに移動した。マラネロ (Maranello) はエミリア・ロマーニャ州モデナ県にある。到着後フェラーリ博物館 (Galleria Ferrari) を見学した。博物館では、フェラーリの歴代車、F1マシンが展示されていた。その後は周辺を自由散策した。フェラーリの本拠地だけあって、街の中をテスト車両が走り抜けていく姿が何度も見られた。バスによるテストコースの見学にも参加した。

9月1日：第7日目

午前中は、ランボルギーニ社 (Lamborghini) があるサンタアガタ・ボロネーゼ (Sant'Agata Bolognese) に移動し、ランボルギーニ博物館を見学した。内部の様子を写真11に示す。スタッフの方が、ランボルギーニの歴史と代表する車の説明をしてくださった。その後、マセラッティなどを個人所有し展示している博物館を見学した。その所有者は大酪農家でもあり、イタリアを代

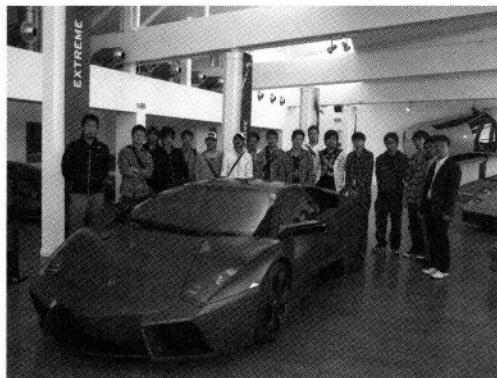


写真11

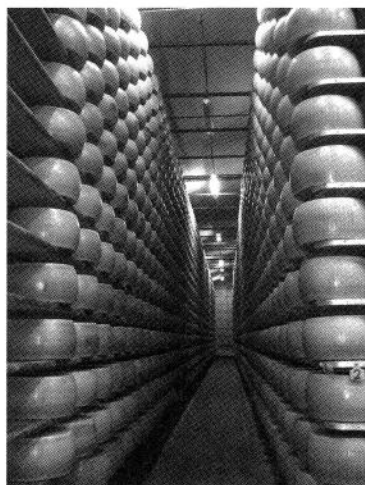


写真12



写真13



写真14

表するチーズで、イタリアチーズの王様と呼ばれるパルミジャーノ・レッジャーノ（Parmigiano Reggiano）の倉庫も見学させていただいた。熟成させているチーズを写真12に示す。

昼食後、イタリア国立フェラーリ工業専門学校での研修が行われた。修了式後の先生方との集合写真を写真13に示す。時間の合い間にフェラーリのテストコースをフェンス越しに見学できた。その後、イタリア短期留学で学生が研修させていただいているフェラーリ専門の板金整備工場のザナシー（Carrozzeria Zanasi）とフェラーリのエンジン専門整備工場のトニーオート（Toni Auto）の見学をした。写真14に示す。

9月2日：第8日目

修了式のときにフェラーリ校から吉報があり、フェラーリ本社工場の許可がおりたとの連絡を受けた。引率者、参加学生への提案と検討により、当初の日程を変更してフェラーリ工場の見学を実施することとした。見学予定が午後なので、午前中は近隣の都市であるボローニャ（Bologna）の自由研修とした。赤いレンガ色に染まる町で、中世の町並みと先進的な営みがされ



写真15

ている町である。筆者がポーロニヤ大学の博物館で偶然にみつけた、カエルの足に電気を加える実験で有名なガルバーニ（Galvani Luigi）の実験装置を写真15に示す。

午後はマラネロに戻り、フェラーリ本社工場の見学となった。まずガイドの方からロビーで見学上の注意事項が説明された。その後、徒歩にてガイドの方の引率で工場敷地内を見学した。新しくできた工場は、著名な建築家が手掛けたもので、内部で自動車を製造している騒音・振動などはまったく聞こえることがなかった。緑の中に近代的な建物が存在しているという印象だった。工場

内においても、緑がところどころに配置され作業員へのストレス軽減やクリーン意識への動機付けを推進していることがうかがえた。社長のアイデアで工場内にもフェラーリのギャラリーが設けられていた。ガイドの方は『フェラーリ社で働くみなさんはこんなに素晴らしい、世界に誇ることでできる自動車を作っているのです』と社員への意識高揚も考えられていると説明された。組み立て工場も近代化が進み20分を1ワークとして仕事を進めていく方法が取られていた。参加学生も貴重な見学機会に、少しでも多くの情報を得ようとたくさんの物を見ていた。フェラーリ社ロビーでの集合写真を写真16に示す。

見学後は、ミラノ（Milano）への移動となった。予定を変更したので、ミラノ市内の観光はない予定であったが、現地通訳の方の配慮でミラノのトラム（市電）・バス・メトロ（地下鉄）を体験乗車しつつ、町のシンボルである世界遺産ドゥオーモ（Duomo）を見ることができた。ドゥオーモ前での集合写真を写真17に示す。



写真16



写真17

9月3日：第9日目

帰路に着くためミラノのホテルを出発し、ミラノ・マルペンサ空港（Aeroporto internazionale Milano-Malpensa）より経由地の上海・浦東空港に向かった。

9月4日：第10日目

上海・浦東空港に早朝到着のため一旦中国に入国した。その後すぐに中国出国の手続きをし、午後予定の便で、中部国際空港に到着し、それぞれが全員無事家路に着いた。

5. 考 察

今回の研修旅行では、昨年10月に海外研修・留学委員会の新委員で募集定員及び研修内容・場所の決定と研修期間の検討を行った。また、春の短期留学が実現できなかったため、この研修旅行も参加募集の難航が予測された。リピーターにも対応できる旅程案を作成した。旅程調整にも時間を要した。参加予定者が想定人数に達することが難しくなり、10名以下での催行を考える必要性も出てきた。しかし、募集締め切り間際で最終15名となり、無事実現可能となった。

前年度の報告でもあったように、今後は募集人数、旅程を変化させてリピーターにも対応できる要素を検討すべきだと考える。今回の参加者にもリピーターがいたことはこの研修旅行が有意義であると考えられる。また今回は、研修旅行のガイドブックを大幅改訂し、作成から印刷までを海外研修・留学委員会で対応した。訪問国での一般知識やドイツ・イタリア語会話の項目を取り入れ、より使いやすいものにできた。

6. ま と め

今回、フェラーリ社の工場見学が急遽可能となり予定を変更することとなった。少なくとも研修旅行開始までには見学の可否が確定していることが必須である。

以下の点が成果であった

- ・一般旅行とは異なり、自動車関連の研修内容を充実できた。
- ・欧州の鉄道に乗車することができた。
- ・すべての参加学生が帰国後のアンケートでこの貴重な体験に満足してくれた。
- ・研修旅行中は寒い欧州であったが天候上の問題もなく、無事故で実施できた。
- ・引率者を含めて参加者全員が、いろいろな場面で協力しながらひとつの時を一緒に過ごせたことが最大の成果であった。

最後に、海外研修旅行を実施するにあたり協力を頂いた本学の教職員の方々、研修先の調整と引率をして頂いた学園本部の蜂須賀氏には、深く感謝の意を表します。

この研修旅行に参加した学生の名前を記す。

専攻科自動車工学専攻：1年 西田尚史

専攻科車体整備専攻：白川拓也 丹部康隆 出口雄也 宮川直大

自動車工学科：1年 芳賀嵐 三井大輝 吉川令以史 小林徹也 藤井大輔 堀真也
モータースポーツエンジニアリング学科：2年 石山貴章 堀部浩史 山崎元揮
モータースポーツエンジニアリング学科：1年 畔柳智弘 以上15名

7. 参 考 文 献

- 1) 林文明, 藤田英樹, 鈴木泰成, 木下茂, 鈴木敦巳: 中日本自動車短期大学論叢 第40号 (2009), 2009年度海外研修旅行の報告 p.121-128